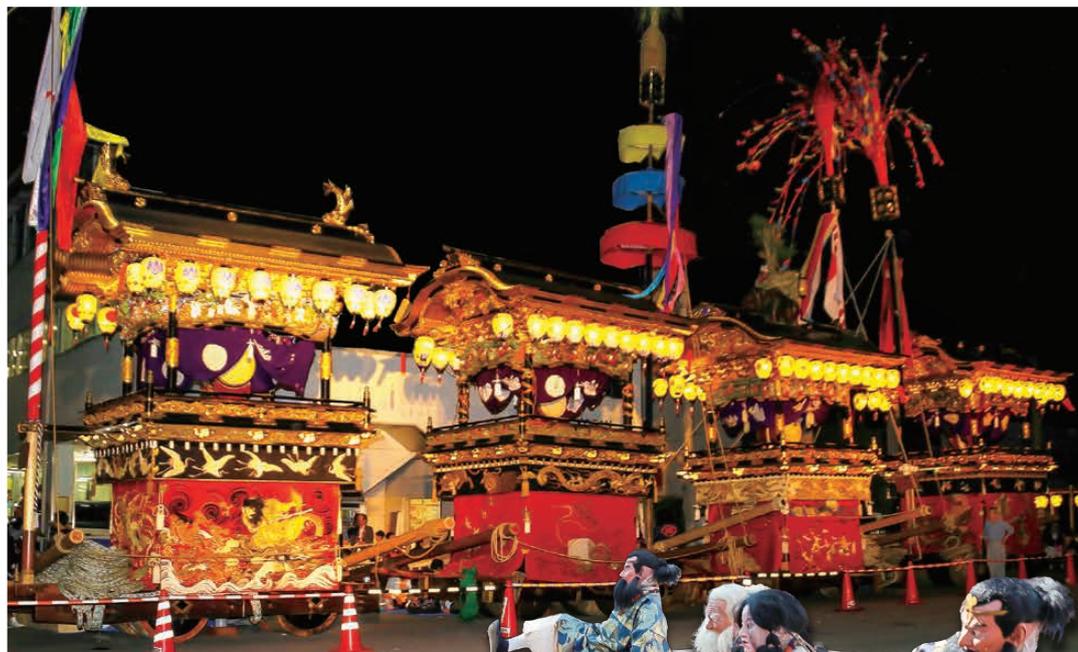


教育と文化

No.126

令和3年7月



Contents

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| 2 巻頭言 | 10 令和2年度最優秀論文 |
| 4 三河の文化を訪ねて | 12 刊行物の活用紹介 |
| 6 特集 研究助成団体の紹介 | 13 令和3年度学校教育ボランティア助成グループ一覧 |
| 8 教育随想 | 14 令和3年度研究発表校一覧 |
| 9 教室の窓辺 | 16 文振だより |



巻頭言

ICTを活用した「学び方改革」、そして「働き方改革」

公益財団法人愛知教育文化振興会理事長 柵木 智幸

この度、天野明典先生の後任として、愛知教育文化振興会の理事長に就任しました。輝かしい歴史と伝統をもつ本会理事長の重責を感じ、身の引き締まる思いです。もとより、浅学非才の身ではありますが、役員のみなさん、事務局のみなさんの御指導御鞭撻を賜り、誠意と情熱をもって職務に務めますのでよろしくお願ひします。

昭和32年に設立された愛知教育文化振興会は、三河の学校、教員、保護者、子どもたちに利益を還元する公益財団法人となり、今年10年目を迎えます。現在、三河の子どもたちの確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む一助となるよう、三河の教師の手により、小学校23品目、中学校19品目の教材等が刊行されています。

特に、昨年度は小学校の「英語の学習」、今年度は中学校の「デーリーイングリッシュ」に代わって「英語演習」が刊行されました。時代のICT化を見据えて、リスニング問題で活用できるQRコードも掲載し、大変使いやすい教材となっています。今後はさらに、多くの刊行物でのデジタル化に取り組んでまいります。

さて、これから迎えるソサエティ50の時代は、グローバル化や人工知能・AI等の技術革新が急速に進む一方で、未来の予測がますます困難となります。このような時代を生き抜く子どもたちには、自ら課題を見つけて学び、自ら考え判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力が求められます。その際、ICTを適切かつ安全



国語科授業
「グループ・プレゼンテーション」

に使いこなす情報活用能力の育成は不可欠となってくるでしょう。

そこで、令和元年12月に文部科学省は、子ども一人一台タブレット端末等の配備と校内高速通信ネットワークの整備を促す「GIGAスクール構想」を打ち出しました。さらには、昨年、新型コロナウイルス感染症拡大防止から全国一斉の休校を余儀なくされ、本構想が一気に加速したところです。昨年9月、岡崎市では、市当局、また教育委員会の特段の配慮により、三河でいち早く本構想が実現しました。ここで、本校の取り組みについて紹介をします。

「ICTリーダー活用」

本校の職員は50名を超え、ICTが得意な者もいればそうでない者もいます。月1回程度の全体研修では、活用の利点やその方法を十分周知でき

ないと考え、各学年1名をICTリーダーに任命しました。

リーダーが時には学年全体で、時には授業後個別にと支援することで、配付されたタブレットの設定、校務支援システムの操作、授業に活用できるアプリの活用等について職員全体に十分な周知が図られていきました。

教員の活用が始まると次に心配されたのが、生徒たちのタブレットの使用方法でした。「ゲームをしていたら…」「不適切なサイトを見ていたら…」等、不安の声が上がります。リーダーたちの結論は、「学習目的を前面に出し、問題が出てくれば、その都度早目に対処する」でした。事前に「あれダメ、これダメ」と禁止するのではなく、道徳等で情報モラルも取り上げながら、生徒自身によりよい使い方を考えさせる方法をとったのです。結果、この方法がうまく進み、幸いにも、大きな問題は起こっていません。

「教員の働き方改革」

文書作成等に役立つのはパソコンですが、タブレットは文書閲覧、情報共有に適しています。この利点を生かして、教員が時間的ゆとりを生み出せるようにしました。

まずは毎日の職員連絡をタブレット配信とし、慣れたところで運営委員会や職員会資料、各種研修資料等もすべて同様としました。加えて、職員のアンケートも瞬時に集計ができるようにしたところです。さらに、授業で使用する教材、例えばワークシート等も電子化を進めてきました。この

ような方法で生み出された時間が積み重なり、長時間のゆとりが生まれてきたのです。余談ですが、ペーパーレスが進み、予算削減、環境への配慮にも役立っています。

「子どもの学び方改革」

本校の生徒たちの1日は、タブレットを充電保管庫から取り出すことから始まり、朝の帯時間では、タブレットでドリル学習を行います。授業が始まれば、社会ではインターネットで一人調べ、音楽では個別にイヤホンをつけて作曲、英語では絵や写真を提示したプレゼンテーション、体育では撮った映像をスロー再生して自身の課題を発見、そして総合的な学習ではタブレットに記入した個人の意見を大型テレビで共有し、ディスカッションに集中します。帰りの会では、1日の生活を振り返ってタブレットに反省を記入し、1日が終了するのです。



保健体育科授業
「マット運動をスロー再生」

行事でもタブレットは大活躍でした。コロナ禍、文化祭では体育館ステージをタブレットに映像配信をしました。新入生説明会では、生徒自身が作成した学校紹介ビデオを披露するまでになりました。「タブレットが導入され、私は主に学習面での充実を実感しています。例えば、英語のリスニングなど、自分では学習しづらい内容もアプリを使えば簡単に行えます。また、グループディスカッションの際も効率よく話し合いが進められます。しかし、使い方を間違えれば、人を傷つけたり、学校生活の妨げになったりするので、タブレットを使う目的を理解し、適切に使用すべきだと思います。」こういった感想からも、生徒が大きく成長したことがわかります。

今年の2月、国立教育政策研究所のシンポジウムで、校長が従来の伝統的な授業にこだわる傾向が強いとICT活用が遅れ、逆にアクティブ・ラーニングなど新しい授業形態に積極的な場合にはICT活用が進む、などの分析が報告されました。この分析について、文部科学大臣は「間違っても校長がブレーキになってはいけません」と述べています。

私自身、校長として、また本会の理事長として、「ICTを活用した子どもたちの学び方改革」、「教員の働き方改革」を一層推進するためのアクセルになっていきます。



タブレット端末を活用した授業のようす

蒲郡市指定無形民俗文化財

く 猛し漢と山車 天下の奇祭く

三谷祭

蒲郡市立西浦中学校 教諭 本多 浩一

三谷六区をあげて、村の発展とともに、祖先崇拜と郷土愛を心の糧に、先人の残した文化遺産を現代に受け継ぐ祭りである。



八剣神社前での山車揃え

三谷祭は、三谷町にある西の八剣神社および東の若宮神社の例大祭である。元禄9年(1696年)8月のある夜、三谷村の庄屋「佐左衛門」が「この郷の産子神である八剣大明神が、村の東辺の若宮八幡(若宮神社)へ渡御なされた」という夢を見たと言われている。佐左衛門は、「これはまさしく神のお告げである」と、早速、神輿を設え八剣宮のご神霊を移し、若宮へお渡しした。これが「三谷祭」の始まりと言われ、今日に至っている。

全村挙げて組織化された祭礼の最も古いものは、正徳2年(1712年)に記録があり、その頃から村全体の行事となっていたと思われる。その後、村の発展と共に祭りは盛大になり、京都祇園祭の影響を受けたとされる絢爛



海中渡御に向かう上区「剣の山車」

豪華で雄大な山車を、各区が競って建造し、これを海中に曳き入れて渡り、賑やかな余興を奉納するようになった。創始当初から重陽の節句(9月9日)当日を祭日として神幸の儀式(神輿渡御)が執り行われてきた。しかし、現在では、潮位の関係から10月第3日曜日か第4日曜日を原則として行われている。

厳肅な中、神との対話から始まる

華やかな奉納芸能に目が奪われがちだが、その実は祭祀が厳肅に執り行われ、神との対話から祭りは始まる。神饌(神様に献上する食事)を供え、また神田でとれた米で作った白酒などを捧げるなど、上代からの形式が残る儀式が行われる。その頃、拝殿前では祭りの始まりを宣言する事触れが行われた後、祭文が称えられ、神を鎮め、また、豊川水系の十数ヶ所に残る疫鬼を押さえる笹踊り(くぐり太鼓)を神へ捧げる。

(1) 山車揃え

4台の山車が、各区をにぎやかに出発して西の八剣神社に集まる。並んだ光景は美しく、観客を魅了する。

各区でそれぞれの色をもつ祭り

三谷祭は、松区・東区・上区・西区・北区・中区の6区が子踊りや伝統の練(踊り)などを奉納し、祭りを盛り上げる。

(1) 松区(笹踊りくぐり太鼓)

「くぐり太鼓」は、歌詞もお囃子もなく、三つ巴文様をあしらった親太鼓一人と小太鼓二人の計三人が、太鼓をたたき、素朴かつ単調なリズムで一見地味に見えるが、力強さと重厚さがあり、味わい深いものである。

(2) 東区(神船若宮丸)

東区の山車は、「神船若宮丸」という船形の山車を持つ。地元の人々からは、「お船さん」と親称されている。

(3) 上区(スサノオの舞と子踊り)

スサノオの舞は、天孫降臨の古事にちなんでおり、スサノオノミコトをはじめとした6神によって舞われる。踊りの手具には、扇・綱・剣・鈴の4種類がある。子踊りは、スサノオの舞のお付きの踊りとして始まり、現在は小学1年〜6年の男女が参加し、当日は祭りを華やかにしている。

(4) 西区(獅子神楽)

獅子神楽は、獅子の面をかぶって舞を踊る。さらにその舞が終わると、古くから続く「朝顔日記」と呼ばれる歌舞伎の演目が奉納される。

(5) 北区(七福神踊り)

七福神踊りとは、白狐・福祿寿・毘沙門天・寿老人・布袋・大黒天・蛭子(恵比寿)による踊りを指し、「綱」

「杖」「鈴」の3種類の踊りから成る。三谷祭では、弁財天がキツネに化けて加わっているとされている。

(6) 中区(連獅子踊り)

連獅子踊りは「連れ獅子」「狂い」「巴」「登り」「御神楽」の5種類から成り、白毛4人と赤毛4人の8人が、二人一組で踊る。白毛の踊り子を「親」、赤毛の踊り子を「子」と言う。切れよく踊ることが肝要とされ、長い赤白の髪が自在に動く様は、見ている側の心を奪う。

三谷町民は子どもも大人も一緒になって楽しめる三谷祭の開催を楽しみにしている。伝統を現代、そして未来につなげられるよう町民一体となって「三谷祭」を受け継いでいきたい。



(1) 松区・くぐり太鼓



(2) 東区・神船若宮丸



(3) 上区・スサノオの舞



(4) 西区・獅子神楽



(5) 北区・七福神踊り



(6) 中区・連獅子踊り

本法人は、三河の教育の充実・向上を図るために、小中学校の教育振興に寄与する教育研究団体に助成を行っている。

三河教育研究会 「はじめに子どもありき」の 教育理念を受け継いで

三河教育研究会 会長 岡田 守
(東栄町立東栄中学校長)

昭和36年5月に設立された三河教育研究会は今年で満60歳。「はじめに子どもありき」の姿勢を貫き、改善を加えながら、一つずつ実践を積み重ね、今日に至っている。

1 三河教育研究会について

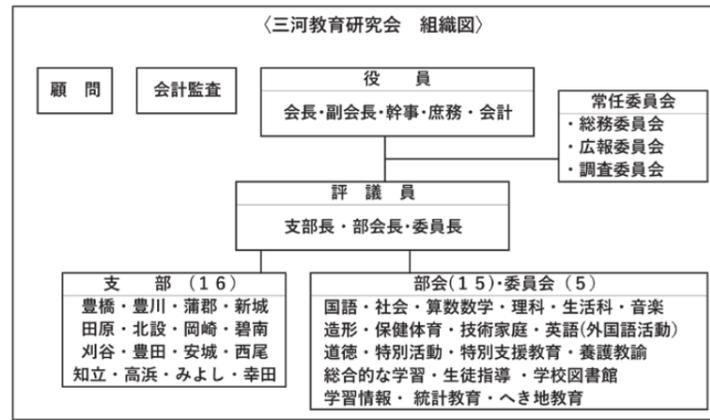
(1) 設立の経緯

昭和36年5月30日に三河教育研究会(以下、三教研)の設立総会が行われている。「三河の風土に根ざし、子どもを中心に据えた教育を実践する」という先人達の高い理想と「三河のすべての子どもたちに、三河の教師たちによる優れた教育を保障したい」という熱い思いが結集された会であったと伝え聞いている。

しかし、それ以前にも、三河には各科の自主研究会があり、本会の前身となっている。昭和24年の造形教育研究会発足をきっかけに算数科、社会科、音楽科、昭和32年の国語科まで三河全域を対象とした研究会が立ち上げられた。年々活発になる活動に対して、三河小中学校長会が各研究会を発展的に統合・再編し、設立されたのが現在の三教研である。統合に際しては、現場の教師の「もっと広く、深く研究する場がほしい」という声が大きくなってきたと言え、それを受け継ぐ私たちは、今一度その思いを再確認したい。

(2) 組織の概要

発足当時は、471校、会員7419



名で、国語、社会、算数数学、理科、音楽、造形、保健体育、技術・家庭、英語の九部会という組織だった。現在は、487校、1万2045名という大きな研究団体に発展してきた。16支部、15部会・5委員会、総務・広報・調査の3つの常任委員会で組織され、活動が進められている。三河の小中学校に勤務する全ての教員が所属をする三河最大の研究組織である。

2 三教研の主な活動

(1) 部会・委員会

部会・委員会の活動は、部会長のリーダーシップのもとに進められる。各教科・領域の教育研究推進のために、研修会、研究大会等を実施したり、研究実践をまとめた研究集録を発刊したりしている。三河各地の実践の発表と協議の機会を設定するとともに、教員自らの資質向上のために、講演会等も同時に開催している。

また、子どもたちの学習成果を示す「みかわの子」の発刊(国語部)や「イングリッシュユースティバル」の開催(英語部)も部会の重要な活動になっている。



授業を語る(授業力養成講座)

(2) 授業力養成講座

平成22年度から始まった授業力養成講座は、各支部の協力を得ながら進められてきた本部事業である。

授業論を学ぶ「夏期講座」と実際の授業実践を通して学ぶ「秋期講座」の2本立てで行われている。会場となる地区は、2巡目に入っており、中堅教員だけでなく、若手教員の研修の場としても有効な機会となっている。

この講座を立ち上げた当時の三教研会長白井正康先生は、「三河教育研究会五〇年誌」のなかで次のように述べている。

「三河教育研究会の原点に戻り、『授業で子どもを育てる』『授業で子どもを鍛える』そんな教師の育成をめざし、東西三河の会場を分けて授業力養成講座を新規事業として立ち上げました。夏季と冬季の2講座を開催し理論と実践の融合を図りながら、確かな授業力をめざしました。」

今年度は、新城・北設地区、刈谷・高浜地区を会場にして開催を予定している。開講当時の思いを大切にしながら、時代に即した研修を重ねていきたい。

(3) 会報「教育みかわ」の発行

広報委員会を中心となって会報「教育みかわ」を年3回発行している。総



会報「教育みかわ」

会・教育講演会、部会の研究大会の概要を参加者の意見や感想とともに掲載し、参加できなかった教師にも伝わるようにしている。また、支部の取組や支部を代表する研究実践を報告することにより、支部間の横のつながりや情報共有に役立つ構成を意図している。

三教研の会報は昭和36年7月「三河教育研究会会報第1号」として発刊された。15周年記念に「三教研会報」が復刻され、その後5年毎に平成23年の「五〇年誌」まで、記念誌として残されている。その間、昭和57年に「三教研会報」から現在の「教育みかわ」に改名されている。「教育みかわ」を紐解くことで、先輩諸氏の三河の教育に対する思いや「子どもありき」の教育の営みの大切さを知ることができる。

三教研のホームページでは、平成26年度以降のバックナンバーを見ることができ。また、今年度は、「五〇年誌」以降の10年分をまとめた『三河教

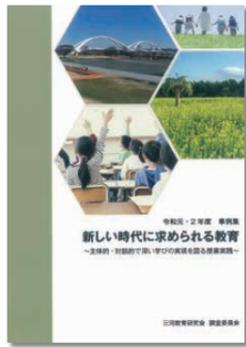
育研究会六〇年記念誌』を発刊の予定である。

(4) 文化振興会刊行物の編集

愛知教育文化振興会が刊行する刊行物の編集も、三教研にとっては重要な取組である。愛知教育文化振興会の刊行物は現場の教師の手で作られる、子どもたちの実態にあった教材を安価で提供するものとして三河の小中学校に根付いてきた。三教研は、この編集を教員の研修の機会ともとらえ、目の前の子どもたちのことを考えながら編集にあたってきた。編集委員は各部会、各支部の会員から部長、支部長の推薦によって選出されている。三河小中学校長会とも連携を図りながら、「編集は三教研で、刊行は振興会で、事業の推進は校長会で」の協力体制を維持しながら、三河の教育の一翼を担っていく。

(5) 実践事例集の発行

調査委員会では、2年に1度実践事例集を発行する。令和元・2年度は「新しい時代に求められる教育」を主体



実践事例集

3 終わりに

コロナ感染拡大防止や、働き方改革の波に翻弄されながらも、教育の営みは粛々と続く。目の前に子どもがいる限り、子どもたちに最高の教育を提供することが我々教師の務めだと確信する。脈々と受け継がれてきた伝統ある三教研の組織や活動の不易と流行を見極めながら、三河の子どもたちのためにさらに邁進していくこそ我々に与えられた使命である。



三教研ホームページ



「こころ」は

自信と安心の貯金箱

岡崎市民病院長

岡崎市こども発達センター長

早川 文雄



Profile はやかわ ふみお

- 岡崎市出身
- S44 岡崎市立六名小学校卒業
- S47 岡崎市立竜海中学校卒業
- S50 愛知県立岡崎高校卒業
- S56 岐阜大学医学部卒業
- H8 第二青い鳥学園 副園長
- H10 岡崎市民病院 小児科部長
- H25 岡崎市民病院 副院長
- H29 岡崎市こども発達センター長
- H30 岡崎市民病院 院長

「発達障害の子どもが増え続けており、教育や子育てがたいへん難しくなっている」よく耳にする問題提起ですが、どうしたらよいのでしょうか？

発達障害とは特性の集合体

発達障害とは嗜好や行動の特徴がきわだった「特性」を持ち合わせた状態を示す用語であり、「特性」が「個性」を形成するとされています。つまり、発達障害といっても一般的な「障害」の範疇には入っていないのですが、「障害」という単語を使用していることで多くの誤解が生じており、対応に多くの混乱がみられています。「特性」を豊かに持ち合わせる人格は個性的であり、良くも悪くもユニークな人生を歩まれることが少なくないですが、奇人・変人と称されるばかりでなく、達人・天才と評される人も多くが発達障害であり、「特性」豊かゆえ、個性的な人柄であることが多いのは、周知の事実です。

特性は脳の働き方の特徴であり、「モノが好き・ヒトは苦手」「こだわりが強い」といった特性を自閉症スペクトラムと呼び、「注意散漫」

「衝動性（ガマンが苦手）」を注意欠陥多動症と呼んでおり、現時点でおよそ十人のうち一人がどれか該当するとされています。では、特性が少ない人はどうでしょうか。特性がなければ個性的にならず、没個性とか凡人と評されることが多いのですが、世の大半はこのタイプの人であるため、「平均的」「標準的」と形容され、受け入れやすい傾向にあります。養育者も教師も、平均的で無難を良しとすることが多いため、「特性」ある子どもは周りの大人の「標準化願望」に苦しむこととなります。

発達障害児の教育と子育て

医師の多くは「こだわり」と「衝動性（ガマンが苦手）」を強く持ち合わせ、「特性」をバネにしないと受験の難関を突破できない？と思わせるほどです。その一方で「関わりが苦手」「不注意」といった特性により患者さんとトラブルになる医師が後を絶ちません。医学部受験に限らず、どんな領域においても他人より秀でるには「特性」が不可欠と言えますが、周りの標準化圧力が強いと

「特性」をバネに飛躍する以前に、自尊心や安心感が打ち砕かれてしまい、学童期の不安障害である「登校しぶり」、うつ状態である「引きこもり」に陥ってしまいます。欧米で優勢な個性尊重に対し、本邦における標準化圧力の強さが「特性」への寛容を欠き、特性児の二次障害を助長すると指摘されており、不登校・引きこもり対策としても学校・家庭で標準化願望の放棄が有効です。発達障害児は長所と短所を著しく併せ持つことが特徴であり、長所を見つけ注目して育み、短所はできる限り無視する接し方、つまり標準化願望を捨て、褒めながら育て、心理的・経済的に自立できる成人への成長を目標にするべきです。

「こころ」は自信と安心の貯金箱です。ストレスという出費は誰でもいつでも不可避ですが、貯金が多ければ平気なストレスであっても、貯金が少ないとヒヤヒヤですよ。この違い、すなわち子どもの中に貯まる自信と安心が、将来の「こころ」の安定をもたらすのです。そのために、彼らにはイソップ寓話で云う「北風」ではなく、「太陽」のように接してあげてほしいものです。

教室の窓辺

体育で大切なことは

岡崎市立竜美丘小学校 教諭

加藤 雅也



学んだことをツイトする子ども

- ①自己意識を大切にすること
- ②他者意識の2つが大きく関わってきます。まず、

ため、前時までの学びを視覚的に捉えることができる「学びの足跡カード」や、ビデオカメラに向かって授業の感想を気軽に伝えることができる「4組ツイト」を実施しました。この手だてによって、初めのうちは「楽しかった」「またやりたい」とだけ述べていた子どもたちが、徐々に自身の学びを認知し始め、「体を上下に動かしたから上手くりズムに乗れた」「次はこんなイメージをもって踊ってみたい」など、自身の学びを具体的に捉えることができるようになりました。次に、②他者意識を大切にするため、「友達と協力すること」「第三者から評価を受けること」を授業の中で取り入れました。「ゆうえんち」を題材にした授業では、「どうしたら、見に来た先生が遊園地らしいと思ってもらえるかな」という学習課題を立てました。前時までに一人で遊園地のアトラクションを表現していた子どもたちは、友達と協力して表現する必要性に気付き、複数人でアトラクションを表現していました。また、アトラクションに対するイメージをみんなで共有し合い、動きを工夫する姿も見られ、「友達と協力して運動することのよさ」を実感しているようでした。また、授業の終末で校長先生に「みんなの踊りから遊園地らしさが伝わって、とてもよかったです」と褒めてもらった子どもたちは、「4組ツイト」で、「校長先生にほめたたちの動きを褒めてもらえて自信になりました」と喜びを爆発させていました。

今後も、体育の研究実践を継続し、重要なキーワードを模索していくとともに、これから関わる子どもたちが「体育って楽しい」と思えるよう、邁進していきたいです。



仲間と協力して「観覧車」を表現する子どもたち

コロナ禍で、当たり前が当たり前でなくなってきました。私たち教師は、前例のない中で、いかに子どもたちがより良い学校生活を送ることができるかを模索し、導いていかなければなりません。一方、子どもたちには、自分で判断し、行動していく力をつけていくことが、益々必要となってきました。その中で、加藤先生は、アイデア豊富に、前向きに取り組んでいます。昨年度の学級では、係活動とは別に、級友や学級のためにやることを自ら考え、実行する「カンパニー活動」というものを行い、子どもたちの自主性を伸ばしました。また、授業では、「スポンジフェンシング」を教材とし、オリンピック・パラリンピック教育に取り組みました。常に子どもたちの興味・関心を大切にして学習意欲を引き出しています。そのため、学級には温かな雰囲気があり、笑顔があふれています。

(校長 吉田 章二)



蒲郡市立中部中学校
教諭 杉本 芳依

自ら追究し続ける子の育成

1 はじめに

子どもたちは、魅力的な対象と出会うことで、「やりたい」「知りたい」という思いをもつ。そして、思いをもった子どもたちは、問題を解決するために、自ら試行錯誤したり、人や事象とかかわったりして、自分の見方・考え方・感じ方を広げ、深めていく。この姿こそ、「自ら追究し続ける子」の学ぶ姿といえよう。そして、「自ら追究し続ける子」の学びの意識をイメージした学びの流れを

自ら追究し続ける学びの4過程
 ①(意識をほりおこす)⇓ ②(意識をほりおこす)⇓ ③(意識をほりおこす)⇓ ④(意識をほりおこす)⇓
 ①見通す⇓③追究する⇓④発展する⇓
 と位置づけ、問題解決的な学習を進めていくことにした。

2 1年次の研究

副主題 小学一年 生活科

「くんぐんぐんぞとてーぼくわたしの秋冬野菜さん」おじいちゃん、おばあちゃんをありがとうパーティーに招待しよう」の実践を通して

◇意識をほりおこす・出会う

当時在籍していた蒲郡南部小学校では、地域の市民グループ『小江まちカフェ』の方々による『小学校と地域協働の畑づくり事業』として、校内の『がまん畑』において野菜作りが行われていた。『小江まちカフェ』の野菜名人の方々から、夏野菜の収穫に招待され、収穫体験をする場を設定したことで、「野菜作りをしたい」「野菜名人さんに食べてもらいたい」という思いをもつことができた。

◇見通す

学級園の整備やグループごとの区分け、野菜名人から種のプレゼント、種の観察活動など、繰り返し野菜と向き合う時間を保障し、対象に浸りこむ時間を設定したことで、「野菜作りをがんばりたい」という思いを高めていった。

◇追究する

個の追究を支える手だてとして、『もしもしメガホン』『もしもしメガネ』を使用した観察活動『もしもしタイム』を設けたり、『健康観察カード』から個の考えをとらえ、それぞれに合った朱書きや対話を行ったりした。また、よりよい世話の仕方に気づかせるために、追究を見直すかわり合いの場『お野菜ミーティング』を定期的に設けた。

草取り、水やり、間引きなどの様々な問題について、自ら試行錯誤するとともに、友達とかかわり合う、野菜名人にアドバイスをもらうなどしながら子どもたちは、よりよい世話の仕方について学びを深めていった。

◇発展する

育てた野菜を野菜名人のおじいちゃん、おばあちゃんに、食べてもらいたい場『ありがとパーティー』を設定したことで、学びの価値を実感し、前向きに野菜の世話をしてきた自分自身のがんばりにも気づくことができた。

3 2年次の研究

副主題 小学一年 生活科

「小江まちカフェのおじいちゃんおばあちゃんにとけーぼくわたしのびんびんぐま」の実践を通して

◇意識をほりおこす・出会う

『小江まちカフェ』の方々と一年間を通して継続的にかかわりをもつことで、小江まちカフェのおじいちゃん、おばあちゃん、子どもたちにとって、親しみ深い特別な存在へと変わっていった。そして、生活科の年間計画の一つの単元として、『びんびんぐま』を位置づけた。

【生活科年間計画】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
活動・単元	夏野菜の植え替え体験	教えて！植物名人さん	教えて！野菜名人さん①	がまん畑パーティー								

単元の初めには、小江地区の人が交流する『まちカフェ』を主催した。『第一回がまんカフェ』を開催した。『第一回がまんカフェ』において、手作りのびんびんぐまをプレゼントしてもらい、回し方を教えてもらったり、遊んだりする時間を保障したことで、びんびんぐまへの関心・意欲もちは始まった。

◇見通す

小江まちカフェの方々のかかわりやびんびんぐま遊びについてふり返る話し合い(問いを生むかわり合い)

の場を設けたことで、「おじいちゃん、おばあちゃんに、びんびんぐまのすご技を見てもらいたい」という単元を貫く思いをもつことができた。

◇追究する

個人追究の時間『びんびんぐまタイム』において、子どもたちは試行錯誤し、気づきを『つくるカード』『わがカード』に分けてまとめた。これらのカードから考えを探り、朱書きや対話を行ったことで、子どもたちは、自分の考えを明確にすることができた。

また、子どもたちの必要感に応じて、『レベルアップ会議』を設けたことで、よりよい作り方や回し方のこつについて学びを深めていった。

◇発展する

『第二回がまんカフェ』でびんびんぐまの中間発表会、『第三回がまんカフェ』で最終発表会を行うことで、追究意欲を持続し、より高度な技にも挑戦していくことができ、おじいちゃん、おばあちゃんへの愛着の高まりも感じることができた。

4 3年次の研究

副主題 小学五年 算数科

「ぼく・わたしの『夢の自動車』を作ろう！」角柱と円柱」の実践を通して

◇意識をほりおこす・出会う

トヨタ自動車工場見学や自動車プラ

モデル作りを通して、子どもたちは、自動車作りに対し、興味・関心を高めていった。

また、四年生での展開図の学習を想起させるために、サイコロ(立方体)やブロック(直方体)を作り、組み立てて遊ぶ時間を設けた。そのなかで、立体作りの楽しさを実感するとともに、「正確に」「ていねいに」作ることの大切さに目を向けることができた。



【工作用紙で作った自動車模型】

自動車作りに興味をもった子どもたちの思いを「夢の自動車作り」へとつなげるために、工作用紙で作った自動車模型に出会わせた。

また、蒲南作品展(校内の図工作品展示会)において、『夢の自動車展示会』を開催するという目標を設定した。

◇見通す

展開図と面ごとにばらばらにかいた図を比較する時間を設けたことで、展開図は、「速い」「きれい」「簡単」「正確」にできるといふように意識することができた。

また、同じ土俵で考え、学びを深めるために、条件を提示した。



【展開図】

【面ごとにばらばらにかいた図】

◇追究する

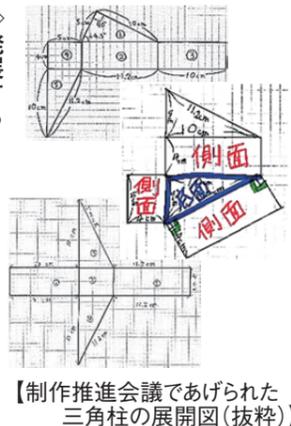
『蒲南自動車の自動車工場』で働く工場長になったつもりで、楽しみながら、算数的活動を行うことを願い、本当の自動車工場のような作業工程で夢の自動車作りを行っていくことにした。子どもたちは、一つ一つの部品を制作するうえで、『夢の自動車設計図』を何度かき直し、工作用紙に設計図を写し、切って貼り合わせるという作業を繰り返し自ら試行錯誤することができた。



【蒲南自動車の作業工程を意識させるための掲示】

また、設計図や制作日記から個の考えをとらえ、朱書きや対話を行い、励ます、正しい展開図のかき方へ促すなどし、個の追究を支えた。さらに、よりよい展開図のかき方について学びを深めるために、子どもたちの必要感に応じて、追究を見直すかわり合いである『夢の自動車制作推進会議』を設けた。会議で、様々な展

展開図のかき方に触れた子どもたちは、自分の追究を見直し、よりよい考えを構築することができた。



【制作推進会議であげられた三角柱の展開図(抜粋)】

◇発展する

夢の自動車を完成させるために、全員が一生懸命に取り組み、素晴らしい作品を完成させ、『夢の自動車展示会』を開催することができた。単元をスタートする時点で、展示会を開催するという単元を貫く目標を設定したことは、意欲を引き出し、自ら追究し続けるために有効であったと言える。

5 おわりに

三年間の研究を積み重ねるなかで、様々な教科において、「自ら追究し続ける学びの4過程」を軸にした単元を構想することで、「自ら追究し続ける子」に迫ることができるとわかった。また、どの教科においても魅力的な教材を選定し、子どもの学びに応じて単元構想を柔軟に見直していくこと、大切さを学ぶことができた。今後子どもに寄り添い、子どもとともに学び続けていきたい。

〈小学校〉

発表年月日	研究領域	研究主題	研究期間	指定等	地区	学校名
3.10.28(木)	全教科	自ら学びを楽しむ子の育成 ～問いを大切に授業を通して～	元～3	市教委	豊川	桜町小学校
3.10.28(木)	国語科・算数科	深い学びを通して、自分と仲間の成長を感じる子の育成 ～切り返しの発問を核とした授業過程のあり方～	元～3	市教委	豊川	代田小学校
3.10.28(木)	教科	ひと・もの・こととかかわって学び、考えを深める 棚尾っ子の育成 ～棚小3つのTを手だてとして～	元～3	市教委	碧南	棚尾小学校
3.10.28(木)	国語科	学びに向かう子 ～「野田っ子ポイント」を活用した国語の授業～	元～3	市教委	田原	野田小学校
3.10.29(金)	学習指導	つながりを生かし、学びを深める寺部っ子の育成 ～友達の意見に耳を傾け、高め合う授業～	2～3	市教委 (指定)	豊田	寺部小学校
3.11.26(金)	国語科	確かな国語力の向上をめざす授業の構築 ～論理的文章を読むことから活用することへと展開 する授業から～		自主	岡崎	矢作東 小学校

〈中学校〉

発表年月日	研究領域	研究主題	研究期間	指定等	地区	学校名
3.10.13(木)	学習指導	自他の考えを高め合い、「伸びる」を実感できる生徒の育成 ～体験的・問題解決的な授業の構想を大切に学習 を通して～	元～3	市教委	豊橋	豊岡中学校
3.10.15(金)	地域連携	地域と共に歩み、未来を拓く生徒の育成 ～ふるさと旭にわくわくする学びの実現～	2～3	市教委 (委嘱)	豊田	旭中学校
3.10.19(火)	教科	「自ら考え、判断し、表現する生徒の育成」 ～深い学びにつながる授業改善を通して～	元～3	市教委	刈谷	依佐美 中学校
3.10.20(木)	全教科	未来をたくましく生きる力を育む教育の創造 ～仲間と学ぶSOZOの時間を核に据えて～	元～3	市教委	岡崎	翔南中学校
3.10.21(木)	全教科	『自ら学び、共に学び、豊かに学ぶ生徒』の育成 ～「学習マネジメント」と「見える化のある授業」を通して～	元～3	市教委	新城	新城中学校
3.10.21(木)	9教科 特別の教科 道徳 自立活動	自己有用感が高まる福中生を目指して ～「授業で大切にしたい3つの手だて」を取り入れ た実践を通して～	30～3	市教委	西尾	福地中学校
3.10.21(木)	道徳教育	「自己を見つめ、仲間と語り合うことで、よりよく 『いきよう』とする生徒の育成」 ～知中デザインの道徳の授業を要にした道徳教育の 研究～	元～3	市教委	知立	知立中学校
3.10.22(金)	学習指導	わたしを信じる みんなを信じる ～確かな「自分軸」をつくる「きき合い」の授業～	2～3	市教委	安城	東山中学校
3.10.28(木)	全教科 領域	社会性を育む ～生徒の豊かな人間関係の構築と自己形成への歩み を支える～	元～3	市教委	豊川	中部中学校
3.10.28(木)	コミュニテイ スクール	つなぐ ～「ひと」「こと」「もの」が生きるコミュニテイス クールの確立～	2～3	市教委	田原	福江中学校
3.11.12(金)	全教科 特別支援(道徳)	わかる学習指導 第12次研究(3年次) 自ら学び続ける生徒の育成 ～「読む」「書く」の充実を図り、『わかる』の実感 を強める学習指導を中心に～	毎年	自主	岡崎	竜海中学校
3.11.12(金)	学習指導	対話を通して協同的に学ぶ生徒の育成 ～「かかわりの力」を発揮し、学び合う授業を目指して～	2～3	市教委 (指定)	豊田	高岡中学校

三河の教育研究

令和3年度 研究発表校一覧

令和3年7月1日現在

〈附属学校〉

発表年月日	研究領域	研究主題等	研究期間	学校名
3.9.28(火)	教科	授業研究会 「未定」(1年次)	3～7	附属岡崎中
3.11.5(金)	教科	第52回特別支援教育研究協議会 「学びを生活に生かす子どもの姿を求めて」(2年次)	2～6	附属特別支援
3.11.18(木) 3.11.19(金)	教科	第72回生活教育研究協議会 「豊かに生きる」(4年次)	30～4	附属岡崎小

〈小学校〉

発表年月日	研究領域	研究主題	研究期間	指定等	地区	学校名
3.10.13(木)	全教科	プログラミングの思考育成からはじめる創造的に学 ぶ子の育成 ～主体的・対話的なプログラミング学習を通じた新 しい学びの実現～	元～3	市教委	岡崎	羽根小学校
3.10.20(木)	学習指導	『わかる』を自覚し楽しむ子どもの育成 ～「めあて」と「ふりかえり」を生かし、自他の考 えをつなげる場を大切に学習を通して～	元～3	市教委	豊橋	岩田小学校
3.10.21(木)	国語科・社会科 生活総合	思いや考えを広げ深め合う子の育成 ～地域の人・もの・ことを生かした授業づくり～	30～3	市教委	西尾	一色東部 小学校
3.10.21(木)	国語科	「書くこと」を通して、共に思いや考えを広げ深め る国語科の学習	30～3	市教委	西尾	室場小学校
3.10.21(木)	体育・教科指導	活力あふれる子の育成 ～学びを充実させる「楽しむ」三段階のステップと 成長を支える生活サポート～	元～3	市教委	新城	東郷西 小学校
3.10.21(木)	特別の教科 道徳	一つの考え方よりも二つの考え方のできる子どもの育成 ～「考える」、「議論する」を大切に道徳教育の実践～	元～3	市教委	新城	黄柳川 小学校
3.10.22(金)	道徳科	自己肯定感を高め、ともに課題を解決していく子ど もの育成 ～「授業・環境・富東っ子タイム」三本柱の充実を 通して～	2～3	市教委	刈谷	富士松東 小学校
3.10.26(火)	学習指導	自ら地域とかかわり、学びをつなげ、思いを深める子ど も ～ふるさと学習と教科・総合的な学習の時間を関連 付けて～	2～3	事務協	北設楽	名倉小学校
3.10.26(火)	E S D (持続可能な 開発のため の教育)	自ら培った三つの力を発揮し、社会をよりよくしよ うとする子どもの育成 ～学びをつなぎ地域・社会とつなげ未来につながる ESDの実践を通して～	元～3	市教委	豊橋	大崎小学校
3.10.27(木)	全教科	『自らの意思で 発見・判断・実行できるスーパ ーソサエティキッズの育成』 ～一人一人の子供が主体的に学び、深め、広げてい く学習指導の在り方～	元～3	市教委	岡崎	広幡小学校
3.10.27(木)	教科指導	「自他を認め、対話を通して、主体的に学びを深め る子どもの育成」 ～見つけ学習の実践を通して～	2～3	市教委	みよし	中部小学校
3.10.28(木)	全教科 領域	一人一人を大切に学習級づくり みんなで生き生きと学ぶ授業づくり	元～3	市教委	豊川	八南小学校

※高浜市、幸田町は該当なし。

※蒲郡市は本年度実施しない。

 **コンクール関係**

みかわ^{さい}彩^{さい}発見
絵画コンクール
 あなたの **くらし** **まつり** **ふるさと** を描いてみませんか?

応募期間
 「春・夏の部」
 令和3年8月25日(水)～9月8日(水)
 「秋・冬の部」
 令和3年12月20日(日)～令和4年1月12日(水)
 (※土・日・祝日を除く)

詳しくはこちらから


 **令和3年度 団体研究助成**

6月18日(金)に審査委員会を書面にて開催し、次の5団体に交付が決定しました。

- ・三河小中学校長会
- ・三河教育研究会
- ・三河教頭会
- ・愛知県へき地教育研究協議会
- ・生活・障害児教育研究協議会

 **使用報告・刊行物注文締切**

◇使用報告／夏休み日誌
 7月6日(火)～8日(水)
 算数の友(下)
 9月7日(火)～9日(水)

□注文締切／冬休み日誌・かきぞめ手本
 9月14日(火)～16日(木)

 **会議の予定**

- 第2回文振都市正副代表者会 10月8日(金)
- 第2回文振都市事務担当者会 10月19日(火)
- 刊行物都市説明会 10月下旬より開始します。

 **令和4年度版の
刊行物編集にあたって**

- ・適所にQRコードを取り入れて、子どもたちがより使いやすく、分かりやすい内容をめざします。
- ・多くの刊行物の教師用については、従来通りの紙媒体とともにPDF版をお配りする予定です。タブレット端末で有効にご活用ください。

**よりよい刊行物の編集のために
ICT部創設**

文化振興会では、令和3年4月より今までの4つの部(総務部・編集部・業務部・経理部)に加え、ICT部を創設しました。文振内のICT化はもちろんのこと、三河の小中学校で採用されている刊行物のデジタル化や編集委員会でのICT活用を進めるために連携していきます。

 **お願い**

文振の刊行物は、三河の教師の手で編集されています。デジタル化に関しては、現場の声が特に必要です。「こうなったらいいな」という声をぜひお寄せください。



令和3年度 業務組織

顧問 青木 宏氏	総務部 山本 満夫
理事長 柵木 智幸	編集部 水藤 彰啓 稲垣 良治
副理事長 岡田 守	ICT部 水鳥 勝久 名倉 嘉章
常務理事 伊藤 雅朗	業務部 天野 明典 本多麻紀子
天野 広子	深津 理絵
事務長(兼総務部長)	経理部 谷中 智典 浅井 英雄
酒井 敬	牧 富代
事務次長(兼業務部長)	事務員 鈴木 千明
白井 博司	

文振の最新情報は、ホームページをご覧ください。各種応募要項、申請書の様式等もアップしています。